

毎週土曜日 午前 9 時 15 分 ~ 9 時 25 分放送

2010 年 12 月 28 日

午前 9:20 ~ 9:30

CRT 両毛支局にて収録

「理解」とは何かを考える

- 「学習の 3 段階理論」で学力を身につけよう(1) -

開倫塾

塾長 林 明夫

* CRT のスタジオで収録した内容を思い出しながら、塾生の皆様の御参考になればと大幅に付け加え、お読みになりやすいように QandA の形で書き直してみました。

1 . はじめに

明けましておめでとうございます。開倫塾塾長の林明夫です。今年も 1 月 1 日から「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

今回は、新年第 1 回目の放送であり、また、本年 3 月には「開倫塾の時間」の放送開始から 25 年目を迎えますので、「効果の上がる勉強の仕方」をお伝えするという「開倫塾の時間」の原点に戻り、長年お話してきた「学習の 3 段階理論」についてお話いたします。

2 . 学習の 3 段階理論とは

Q : 「学習の 3 段階理論」はどのようにしてできたのですか。

A : (林明夫。以下略)

(1) 世の中には、同じ内容を勉強していながら、よい成績を取る人と余りよい成績が取れない人がいます。同じ試験を受けても合格する人と合格しない人がいます。それは何故(なぜ)か、皆様は考えたことがありますか。

(2) 私は、開倫塾を始めて 31 年になります。開倫塾を始める前も大学生の時から 10 年ぐらい学習塾や予備校の講師、家庭教師をしていましたので、合わせて 40 年近く、どうすれば塾生の皆様がよい成績が取れるようになるのか、どうすれば塾生の皆様が自分の希望する学校 開倫塾では自分の行きたい学校を「一流校」と呼んでいます に進学できるかを考え続けてきたことになりましたね。

(3) ずっとずっと考え続けてはっきりしてきたことは、よい成績を取る人は自分なりの勉強の仕方を身につけているということです。逆に言えば、余りよい成績が取れない人は自分なりの勉強の仕方を身につけていないということです。

(4) そこで、開倫塾を始めてしばらくして開倫塾の教育目標を定めるときに、その中にはっきり示そうと「自己学習能力の育成」(自分で学習する能力を育み育てること)を入れさせていただきました。CRT ラジオ栃木放送から毎週土曜日の午後生番組で「開倫塾の時間」という番組をやり、スポンサーになるよう御依頼があったときに、「効果の上がる勉強の仕方」という内容であればと受諾させていただきました。

(5) どうすれば「効果の上がる勉強」ができるのかということ、塾生の皆様にも、保護者の皆様にも、放送等を聴いて下さる地域社会の皆様にも、ビジネスパートナーの皆様にも、そして何よりも開倫塾の先生方にわかりやすく御説明してわかっていただき、それを身につけて家や学校で勉強するときにも試験や実生活でも役立てていただこうと、できるだけ具体的にお示ししたのがこの「学習の3段階理論」です。

(6) どのようにして「学習の3段階理論」ができたか。私は小学生のころから勉強することが大好きでしたので、勉強の仕方には大きな関心がありました。中学校、高校、大学ではよく勉強する人を身近に数多く見、また、学習塾や予備校の講師、家庭教師として仕事をさせていただいている間も、開倫塾を始めさせていただいてからも数多くの塾生の方々と接し、また、開倫塾以外でも素晴らしい勉強を毎日のようにさせていただいておりますので、それらをすべてまとめさせていただいたのが「学習の3段階理論」です。20年以上前から少しずつまとめ始め、CRT ラジオ栃木放送や開倫塾、講師を依頼された大学院、大学、短期大学、専門学校、高校、中学校、小学校、教育委員会、企業、NPO などありとあらゆるところでお話させていただき、皆様から御意見をいただきながら少しずつまとめ直しているのが、この「学習の3段階理論」です。

(7) これをまとめている今日は2010年の大晦(おおつごもり)、一年の最終日12月31日ですので、これは2010年12月31日現在の「学習の3段階理論」と言えます。この「学習の3段階理論」は、これからも少しずつ進化していくかもしれませんね。このような経緯や意味で「学習の3段階理論」ができ上がり、また、考えられておりますので、どうかこの文章をお読みの皆様も自分なりの「勉強の仕方」を考え、身につける上で、この「学習の3段階理論」を参考にしていただければありがたく思います。

Q: 「学習の3段階理論」はどのような内容ですか。

A: 学習を「理解」、「定着」、「応用」の「3つ」の「段階」に分け、その1つ1つの段階の意味を考え「定義」した上で、1つ1つの段階ごとに具体的にどのような「勉強の仕方」をしたらよいかを考えたものです。

Q: 第1段階の「理解」とは何ですか。

A: (1) 「理解」とは、今学習していること(内容)が「うなるほど」と「よくわかること」、「納得できること」、「腑(ふ)に落ちること」を言います。

(2) 学習する人にとって、「理解」は自分自身で学ぶこと(自学自習)でもできますし、学校や開倫塾などで先生から教わること、つまり授業を通してでもできます。つまり、「理解」の場面は、自分自身で行う「自習」と先生からの「授業」との2つがあるということです。

Q: 「授業」での「理解」のポイントは何ですか。

A: (1) 授業中は姿勢を正し、手を机の上に置いて先生の目を見つめ、先生の授業を一語一句聞き漏(も)らさないように真剣に聞くことです。

(2) 授業を「欠席」「遅刻」「早退」すると、教室に不在(いない)の間は先生の授業を受けられません。授業中に「私語つまりおしゃべり」や「居眠り」「携帯電話」「他のことを考えていること」「ボーッとしていること」「授業以外のことをしていること」は、授業での「理解」の「妨げ」となります。また、他の人が授業で「理解」をすることの「妨げ」となりますので、できるだけ避ける、できれば「絶対にしない」よう心掛けるべきです。

(3)授業には先生の指示で積極的に参加し、授業での「理解」を促進しましょう。「友人と話し合いましょう」「ペアワークをしましょう」「実験・観察をしましょう」「調べましょう」「練習をしましょう」などと積極的な行動に出ることを先生が指示したときには、その指示に従った行動をして下さいね。

(4)授業中に、必要と思われることは「ノート」にどんどん「メモ」をすることも必ず行って下さい。板書事項つまり先生が黒板に書いたことだけでなく、先生が授業中にお話して下さったことは一語残らずノートを取り続けるのも、ノートの取り方の一つの方法です。

Q:「ノート」を取ること、「メモ」を取ることは大切なのですね。

A:(1)はい。人が話していることをすべてメモできる、ノートに取れることは大切な能力の一つです。

(2)例えば、私は、ロシア語で人から話を聞いたり授業を受けたりした内容は一言もノートに取れないと思います。日本語で聞いたり授業を受けたりした内容は、余り難しくない内容で、また、ゆっくり話して下さった場合にはノートに取れることが多いかもしれません。つまり、私はロシア語ではメモやノートを取ることができない、ロシア語でノートを取る能力はありませんが、日本語ではメモやノートを取ることができる、つまり日本語でメモやノートを取る能力があると言えます。

(3)その言語でメモやノートが取れるのは大切な能力の一つだと私は思います。

(4)仕事をする上での教科書はほとんどありませんので、いろいろな人々から教えていただいたり、話し合った内容を正確にメモし続けて仕事を身につけたりして、仕事の上での約束を守ることが求められます。メモを取る能力は仕事をする上で役に立ちます。メモが取れない人はよい仕事ができない。メモがよく取れてメモをよく身につけた人は、よい仕事ができる。仕事はメモで身につける。仕事以外の社会的活動でもメモを取ることは大切です。

(5)学校の授業でノートを取ることでできる能力を身につけることは、社会に出て仕事や様々な活動をする際に大切なことをメモし、自分の社会人としての責任を果たすことに役に立ちます。

Q:なぜ「ノート」や「メモ」は取らなければならないのですか。

A:(1)「うんなるほど」と「理解」したことも、あとになると忘れてしまうことが多いからです。

(2)ものごとを「うんなるほどと理解できること」と、それを「覚えておくこと」、「身につけること」とは別のことと考えた方がよい場合が多いように私は考えます。

(3)もちろん、印象深いことや物語のようなお話は後々まで「記憶(きおく)」の痕跡(こんせき)が残り、ずっと「覚えておく」こと、いつまでも「忘れない」こともあるかもしれません。

(4)しかし、授業で学んだこと、仕事の上で教えていただいたこと、話し合ったり打ち合わせをした内容のすべてをずっと覚えている、いつまでも忘れないでいることは余りできないのではないかと私は考えます。

(5)ですから、授業や仕事、社会的な活動で大切なことはしっかりノートに取ったり、メモをして、いつでも見ることでできるようにしておくことが大切だと私は考えます。

Q:ノートに取ったことやメモをしたことはどうしたらよいのですか。

A:(1)授業が終わった後、人からいろいろなことを教わった後、仕事や社会的な活動で話し合いや約束ごとをした後に、その「ノート」や「メモ」をもう一回見直し、その内容をよく思い出し

て必要なことを書き足したり、後で見やすいようによく整理することをお勧めします。

(2) 大切なところはマークを引く、下に線を引く、線で囲むと見易くなります。

(3) 項目を下のように分けることを学ぶことも大切です。

(4) 一番大きな項目は 、 、 、 ……

| | | |
|-----|---------------------------|--|
| 1 . | ・次は | 1、2、3、4 …… |
| 2 . | ・その下は | (1)、(2)、(3)、(4) …… |
| (1) | ・更に | 、 、 、 …… |
| (2) | と分けていくことが多いようです。 | |
| (3) | ・1、2…の次は | 、 、 …ではなくて(1)、(2)…です。 、 は、(1)、(2)の次にきます。 |
| | ・学校の教科書をよく見て下さい。参考になりますよ。 | |

Q : 自学自習つまり自分一人で勉強しても、「理解」はできるのですね。

A : (1) はい。学校の教科書や副読本、資料集、開倫塾のテキスト、副教材、図書館の本、本屋さんで売っている参考書などを自学自習つまり自分一人で勉強することでも、「うんなるほど」と「理解」はできます。

(2) 大切なことは、何で勉強するのかをはっきり決めることです。あれもこれもと世の中にあるすべての本や本以外の教材を用いることはできません。自分はこの科目・この分野はこれで勉強して「うんなるほど」と「理解」するのだと、一冊、一種類の教材をはっきり決定することです。

(3) 何を用いて勉強したらよいかかわからない人は、とりあえず今勉強している学校の教科書や、皆様は開倫塾で勉強しているのですから開倫塾のテキストを用いることをお勧めします。

(4) 教材を決定することが第一ですね。

Q : 自分はこれで勉強するのだという教材を決めたら、次はどうしたらよいのですか。

A : (1) 学校や開倫塾の授業中に先生から授業を受けるような真剣さで、教材の一語一句をゆるがせにせず、「ああ、これはこういうことなのか」「うんなるほど」と実感するまで「理解」に励むこと。ゆっくりゆっくりと一語一語のことばを噛み締めながら、「そうか、そういうことなのか」と読み進めることが最も大切です。とにかくゆっくりゆっくり読むことです。

(2) そして、よくわからない「語句」や「内容」が出てきたら、サーッと飛ばして先に進まないこと。よくわからなくて「気持ちがよくない」と思い、その前や後の文章や内容をよく読み、それはどのようなことなのかその「語句」や「内容」を推測(すいそく)することが大切です。

(3) それでもよくわからなければ、「辞書」(国語辞典、漢和辞典、英和辞典、和英辞典など)を引いて引いて引きまくり、「ことば」や「語句」の意味を調べまくることで。調べた内容は、科目用の「ノート」や「語句ノート」に必ずメモし、記録をしておくこと。教科書に意味を書き込むことは避けましょう。

Q : 「語句ノート」はどのように用いたらよいのですか。

A : 「語句ノート」は、毎日 1 回、最初のページからゆっくり読み直し、語句の意味を正確に身につ

けること、つまり、この次に出てくる「定着」(スラスラ口をついて正確に言えるように「音読練習」をする。正確に楷書で書けるまで「書き取り練習」をする)させることが大切です。

Q:「ことば」や「語句」の意味は辞書で「理解」できても、内容が難しくてよくわからない場合にはどうしたらよいのですか。

A:(1)学年別参考書を辞書の代わりに用いて、その内容を「理解」することが大切です。

(2)参考書は、説明がやさしい表現で詳しく書かれているものがお勧めです。

(3)内容がよくわからない場合には、学年別の説明が丁寧な参考書を辞書代わりに用いることがここでの勉強のコツです。

Q:学校や開倫塾の教科書など自分で決めた教材を辞書と参考書を用いて自分の力でひたすら「理解」し続ける勉強の方法は、予習でも復習でも使えそうですね。

A:(1)はい。その通りです。ところで、予習は何のためにするのだと皆様はお考えですか。私は、今述べたような方法で、学校や開倫塾の先生方の授業をお聴きするような真剣さで、教科書の一行一行を一語一句ゆるがせにしないで「うなるほど」「そうか、これはこのようなことだったのか」と「理解」し、よくわからない「ことば」や「語句」は辞書で、「内容」は学年別の説明の丁寧な参考書を辞書代わりに用いて、「理解」し尽くすことが予習の第一歩と考えます。

(2)そして、どうしても自分の力では「うなるほど」と「理解」できないところは何かをはっきりさせる、明確にする、つまり問題意識をもって授業に臨むことが予習の目的と考えます。

(3)予習をすることでわからないことを自分の力ではっきりさせてから授業に臨むというこの勉強の方法は、皆様が将来、大学や大学院で勉強したり研究したりするときにも、また、社会に出て企業や様々な場所でものごとを学んだり取り組んだりするときにもとても役に立ちますよ。予習をすることの意味をはっきり自覚し、将来に備えて下さいね。

(4)一度授業を受けた後の復習でも、先生の授業を聴くような真剣さで、教科書を一語一句ゆるがせにしないでゆっくりゆっくり「うなるほど」と「理解」するまで読み込む。わからない「語句」は「辞書」、わからない「内容」は「学年別参考書」で「理解」に励むという、この勉強の仕方は役に立ちます。

(5)このような方法で復習をしてもよくわからない、「理解」できないことがあれば、学校や開倫塾の先生にどうか遠慮なく質問して下さいね。わからないこと、「理解」できないことを残さないことも大切な勉強の方法です。

(6)それまでのことがすべて100%「理解」できていれば、次のことがよく「理解」できる場合が多いと考えます。新しいことを完全に「理解」するために最も求められるのは、それまでに学んだことをよく「理解」していることです。

(7)新しいことを100%完全に「理解」するためには、それまでのことを100%「理解」し、できれば「理解」した内容を正確に身につけていること、次に出てくる「定着」していることが大切と考えます。

(8)この考え方を完全修得理論(Perfect Mastering Theory パーフェクト・マスタリング・セオリー)と呼びます。例えば、教科書の60ページから65ページまでを完全に「うなるほど」と「授業」や「自学自習」で「理解」したいならば、それまでに勉強したはずの1ページから59ページまでをすべて「うなるほど」と完全に「理解」し、できればすべて身につける(「定

着」させる)ように努力しておいた方がよいということです。

Q：お話が随分本格的になってきましたね。

A：はい。「うんなるほど」と「よくわかる」「腑(ふ)に落ちる」という意味での「理解」も、よく考えれば、いろいろな考え方、やり方があるということです。この「理解」についてお伝えしたいことはまだまだたくさんありますが、少し長くなりましたので、「学習の3段階理論」の第1段階である「理解」のお話は今回はこれでおしまいにしましょう。

3. おわりに

(1)次回のCRT 栃木放送「開倫塾の時間」2011年1月8日土曜日午前9時15分から9時25分までの放送では、「学習の3段階理論」の第2段階である「定着」について御説明させていただく予定です。

(2)上の文章は、開倫塾のホームページ(www.kairin.co.jp)の林明夫のコーナーのCRT 栃木放送「開倫塾の時間」のページでも公開しております。他の「開倫塾の時間」の内容の文章とともに是非御覧下さい。

(3)本年もどうかよろしく願い申し上げます。

*長い文章を最後までお読みいただき、感謝申し上げます。

感謝

2010年12月31日記